

## 〈資料紹介〉

## チベット文献資料の歴史

— TBRC Core Text Collections に至るまで —

教授 福田 洋一  
(仏教哲学〈チベット〉)

あらゆる言語の中で、もっとも多くの仏教文献が残されているのはチベット語だということをご存知だろうか。チベット大蔵経は、インドの仏典のみからなり、それ以外のチベット人が書いた文献は、蔵外文献と呼ばれる。大蔵経には、初期の経典から小乗、大乘の経典と論書、そして大量の密教文献、特にインド最後期の密教文献がチベット語に訳出されている。チベット人の書いた蔵外文献もほとんどが仏教書であり、それ以外の歴史や暦学、医学、建築学、語学も仏教に関わるものばかりである。蔵外文献はさらに膨大な数にのぼる。

このような仏教文献の宝庫も、しばらくの間、外国人の近づけるものではなかった。20世紀に入ると、日欧の探検家によって大蔵経や蔵外文献がもたらされ、各国の研究機関に設置されるようになったが、その機関に行って閲覧するしかなかったので、やはり研究環境はよくなかった。日本では、チベット一番乗りを果たした河口慧海将来の文献が東洋文庫に、多田等観将来の文献が東北大学と東京大学に、そして寺本婉雅の将来したものがわが大谷大学に所蔵されている。東北大学は、その蔵書を元に西藏大蔵経目録と蔵外文献目録をいち早く刊行し、チベット語文献目録の基準となった。大谷大学では、北京版西藏大

蔵経の複製本を刊行し、チベット語大蔵経を用いた仏教研究に多大の貢献をした。

1959年、中国軍のラサ侵攻を逃れてダライ・ラマ14世がインドに亡命したときから状況は一変する。相前後して多数の僧侶が、仏像・仏画とともに仏教典籍を持って亡命した。難民となったチベット人たちは、それらの文献を複製出版して収入の一部にあてた。一方アメリカはチベット人難民支援の一環として、その出版活動を支えた。1968年、米国議会図書館のニューデリー支部にチベット仏教研究者のジーン・スミスを迎え、チベット人の出版活動を指導し、刊行された書籍を購入していった。これは農業貿易促進援助法(PL480と呼ばれる1954年に制定されたアメリカの法律。日本が戦後復興期に小麦の供給を受けたのもこの法案の恩恵の一つである。)に基づく支援活動の一つであった。印刷部数500冊のうち半分をアメリカが買い取り、議会図書館を始めとして、アメリカ全土の大学に設置していった。

こうして、それまでは一部の機関でしか閲覧できなかったチベット語文献が、それを遙かに上回る量で出版され、多くの人が手にすることのできるものとなった。

その後、アメリカの世界宗教高等研究所(Institute for Advanced Studies of World

Religions) は、米議会図書館の収集したチベット語文献をマイクロフィッシュに撮影し、1977年から販売を始めた。1990年代までに出版された多くのチベット語文献が収録され、また安価でもあったので、日本でもいくつかの機関が購入した(もちろん本学も所蔵している)。複製出版は、一度印刷されてもすぐに絶版になるため完全な収集は難しかったが、マイクロフィッシュ版は遡って注文することができたので、網羅的にチベット語文献を揃えられるようになった。

一方、1996年に議会図書館を退職したジョン・スミスは、自らの収集した図書をベースに、1999年に新たにチベット語文献を網羅的に収集、整理、提供するための機関 Tibetan Buddhist Resource Center (TBRC) を設立し、2001年には居をニューヨークに移した。コンピュータ技術の進展に対応して、資料名、著者名などをデータベース化し、文献はスキャンしてデジタル化して PDF の形で頒布する方法がとられた。ジョン・スミスの蔵書自体も網羅的なものであったが、TBRC はさらにその後も精力的に文献を収集し、今や PL480 によって米国議会図書館が収集したものを遥かに上回る量となっている。そのほとんどが

PDF 化され、安価に購入できるようになった。

TBRC のデータベースも日々進化し、多くの全集で個々の著作のデータまで採録されるようになっている。人名も著者名だけではなく、先生や弟子、奥書に言及される人物まで収録され、異名や称号からも検索できる。

さらに、個別の文献として頒布されていた PDF を全て収録したハードディスクが機関向けに提供されるようになった。本学が購入した TBRC Core Text Collections がそれである。これを購入した機関は、TBRC のデータベースで検索した文献の PDF を、TBRC のサイトでオンラインで閲覧できる権利が与えられる。日本でこの Core Text Collections を購入した大学は実は多くない。インド仏教およびチベット関係の研究者や学生、大学院生が多数在籍し、チベット研究を重視している大学は日本には数少ないからである。われわれの前には、これまでに出版された、大蔵經を含む膨大なチベット語文献が全て揃っている。あとはそれを読み研究すればよいだけである。数年前には考えられなかった恵まれた環境であるといえよう。

---